

Captain English Course I・II Revised

この教科書で使える英語を 身につけよう

プロテニスプレーヤー
杉山 愛



◆教科書っぽくない教科書

Captain English Course I・II Revised (以下、*Captain I・II*) を読み、とにかく読んで楽しめる文章が集められていること、そして、それをいろいろな角度から習得できるように工夫された教科書であるという印象を受けました。絵や写真も豊富で、面白く読めるのはもちろん、その後理解を深めたり、内容についての質問をリスニングしたり、さらには自分の意見を取り入れながらディスカッションしたりというところまでできる、とても構成が練られた教科書だと思います。

取り上げられた題材で特に印象に残ったのは、*Captain I* の Lesson 4, Be Your Own Captain!, Have a Break 3 の Great Speeches, Reading の The Best Lesson などです。Lesson 4 の最後、KONISHIKI さんの “You are the Captain of your life.” は心に残る一文でしたし、The Best Lesson はとても中味が濃く、読み応えのある文章でした。Great Speeches は、長さも手ごろなので高校生でも全文を覚えられるのではないのでしょうか。覚えるだけの意味や価値がある文章だし、きっと将来に使う機会があるのではないかと思います。

その他、目の錯覚や食文化、ボランティア、友情と恋愛の問題など、引き込まれて思わず読んでしまう話題ばかりで、“いかにも教科書” という使えない文章ではなく、会話文なども、そのままふだん使えるような文章が多く盛り込まれているという印象を受けました。

さらに、楽しいだけでなく、*Captain I* の最後の Lesson は War of the Landmines という地雷の話です。おそらく日本人は、外国では今でもこのような戦争の被害が続いているということさえ知らない人が多いのではないかと思います。知ることによって海外に目を向けることにつながります。教科書によってそれが可能になるのは、素晴らしいことだと思います。

◆意見を持ち、それを表明すること

教科書のなかで、読む一方ではなく、Communication 1「有名人になって自己紹介しよう」や Communication 2「構想をねってスピーチしよう」(ともに *Captain I*) といった活動に多くのページが割かれていることも、とてもよいと思いました。

日本人は、意見を発信したり、ディスカッションしたりすることが苦手です。私の経験を振り返っても、選手時代のプレイヤー・ミーティングで、他の国の選手は拙い英語でもどんどん質問するのに、日本人はシャイでその場では発言できず、あとでこっそり個別に質問したりしているのを見て、歯がゆい思いをしていました。私自身も、最初は難しくてなかなか堂々と意見を出したりできませんでしたが、そういう場に身を置くことで、すこしずつ慣れて、発言できるようになりました。学校のクラスでそのような立場を経験することや、そういう場を練習することを重ねると、将来の役にも立つし、日本人も成長していけるのではないのでしょうか。そのためのステップと



きません。それは言葉によって変わるわけです。
やはり、英語のストレートな、スパーンと斬り込
むような形態によって引き出されるものだと思います。

◆英語が話せて損はない

◆語学が引き出すもの

でも私は、英語をしゃべれて損はないよ、と言いたいです。

今は、地球の裏側でも1日あれば行ける時代です。今のこの世に生まれてきて、これだけ世界が小さくなっているのに、英語がしゃべれないというのはもったいないと思うのです。チャンスがあれば、海外にどんどん出て行ってほしいと思うし、出ていったらきっと英語が話せるようになりたいと思うはずです。英語が話せれば楽しみも増すし、いろいろな人に会って広い世界のユニークな考え方にも触れられるし、何より自分自身の世界がぐんと広がります。

先生がされる学校の授業というのも、すごく影響力が大きいと思います。生徒が将来英語を使えるように、英語が生徒の将来に役立つように、日々の授業を工夫していただけたらいいな、と思います。使える英語ということで言えば、まさに *Captain I・II* はそんな題材の集まった教科書なので、ぜひ活用していただきたいと思います。

G.C.D. 英語通信 No.48 (Apr. 2011) 7